

氏名	田川 浩子
学位の種類	博士（体育スポーツ学）
学位記番号	第 2 1 号
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位授与年月日	令和 6 年 9 月 1 9 日
学位論文題目	大学陸上競技者における技能改善に向けた運動の理解 に関する確認観点の提案：技能改善が上手くいかない情 況の事例分析を手がかりにして
論文審査委員	主査 前田 明 副査 金高 宏文 副査 金谷 麻理子 副査 関 朋昭

論 文 概 要

陸上競技におけるパフォーマンス（競技記録等）の発達は、大学生期になると中学生・高校生期と比較して鈍化することが知られている（村木，1994）。陸上競技を専門とする大学生競技者（以下，大学陸上競技者）の中には，中学生期や高校生期から競技活動を継続しながらパフォーマンスの向上を目指して運動技能の改善（以下，技能改善）が上手くいく競技者もいれば，なかなか思うように進まずに上手くいかない競技者もいる．それ故，指導者は技能改善が上手くいかない競技者に対して，その状況を打開するきっかけを適宜提示することが求められる．そこでは，「競技者自身が目指す運動をどのように理解しているのか」等，技能改善を上手く導くための手がかりを持っておくことは極めて重要なことと考えられる．しかし，技能改善に伴う運動の理解を確認するような観点について，実践場面における競技者の理解の変化を手がかりに示された研究は見当たらなかった．そこで本研究では，技能改善が上手くいかない大学陸上競技者の技能改善過程に着目し，運動の理解に関する変化を探ることで，現場的な立場から，大学陸上競技者やその指導者が技能改善を円滑に進めるための仮説的な運動の理解に関する確認観点について提案することを目的とした．

まず，研究課題 1 では，大学陸上競技者でも自身で運動の理解した内容である運動意識を可視化する簡易な記述・分析法について，既にその方法を提案している先行知見（金高・瓜田，2001）を手がかりに再検討した．その結果，特性要因図を作成する手続きを援用し，課題であった「対応化」や「階層化」を表現した運動意識の記述・分析法を提案した．運動意識の可視化では，①意図と感じを表出させること，②表層か深層かの区別がついていること，③表層の意図がどこからどこまでか分節点を決めること，④表層の意図と感じを対応させること，この 4 つのポイントを押さえながら記述・分析を繰り返す中で，意図と

感じを明瞭化させていくことが重要であることが明らかとなった。

研究課題 2 では、技能改善が上手くいかない陸上競技の砲丸投を専門とする 1 名の競技者（以下、競技者 A）の技能改善過程に着目し、研究課題 1 で提案した記述・分析法を活用して詳細なインタビュー調査の分析から運動の理解に関する変化を探った。その結果、運動を理解する際に、ある運動に対する知識について誤った解釈をしている可能性やある運動の押さえるべき重要なポイントとなる動きを見落としてしまっていることが明らかとなった。また、技能改善の取り組みの分析から、競技者や指導者が「技能改善を円滑に進めるための仮説的な運動の理解に関する確認観点」（以下、確認観点）として、「①目標像は、改善すべき技能における重要なポイントを理解しやすいもので、自身の体力特性に相応しく、1 つ（ひとまとまりのもの）に固定され設定しているか」、「②目標像の模倣は、運動フォームだけでなく、運動意識についても確認し、理解しながら模倣しているか」、「③模倣の中で、『できた』『できていない』の評価の観点を運動フォーム、運動意識の両側面から明確にしているか」、「④技能改善の取り組みの中で、運動意識における意図と感じの表出化・対応化・分節化・明瞭化が連還して行われているか」、「⑤技能改善を進める中で、理解する内容が主観的なものか、客観的なものかを明確にし、相互を照合化しているか」の 5 つが明らかとなった。

次に研究課題 3 では、研究課題 2 で導出した確認観点を仮説とし、競技者 A 以外の技能改善の経験を有する競技者にも当てはまるのかについて、陸上競技の跳躍・投擲種目を専門とし、競技経験が 3 年以上の者 10 名に半構造化インタビューを実施し、その妥当性を検討した。その結果、上手くいかない状況では 5 つの観点から逸脱して取り組んでいたことから、確認すべき観点であることが明らかとなった。一方、確認観点の取り組みをしているにも関わらず、上手くいかない競技者もいた。そのため、確認観点を再検討した結果、より詳細に確認する必要がある項目、新たに確認すべき項目を加えた 12 個が導出された。

また、総括論議において、本研究で取り上げた 11 名の事例から「技能改善が上手くいかない」ことへの本質を問いただした。その結果、毎回異なるコツから類似性を発見することが難しいと考えられ、コツが一般的なものになっていかないことが認められた。そのため、コツの一般化も確認観点に加える必要があり、運動意識の詳細な項目に追加した。

以上のように本研究では、技能改善に向けた競技者や指導者を支援するものとして、1) 競技者が運動意識を可視化するためのポイントと簡易に記述・分析できる方法を示し（研究課題 1）、それを活用しながら、2) 技能改善が上手くいかない競技者の事例的分析より 5 つの確認観点を導いた（研究課題 2）。そして、技能改善が上手くいかなかった経験を有する競技者の技能改善過程より、5 つの確認観点について検討し妥当性を確認でき（研究課題 3）、本論文の最終的成果として、3) 「技能改善を円滑に進めるための運動の理解に関する確認観点」を作成することができた。本研究での知見は、現場的な立場を柱に平易的な内容で提示したことにより、競技者や指導者に供用性のあるものと考えられる。

今後は、確認観点を技能改善が上手くいかない競技者へ援用し、技能改善を円滑に行う

ことができるのか事例的に検証する中で、実践的な場面でも妥当性を持ったものであるのか検討を重ねる必要がある。

論文審査の要旨

本論文は、競技記録が順調に向上しないで技能改善が上手くいかない陸上競技を専門とする大学生競技者（以下、大学陸上競技者）の技能改善過程に着目し、運動の理解に関する変化を探ることで、現場的な立場から、大学陸上競技者やその指導者が技能改善を円滑に進めるための仮説的な運動の理解に関する確認観点について提案したものである。そのために3つの研究課題を設定し、検討されている。

研究課題1では、運動意識を可視化する簡易な記述・分析法について先行知見を手がかりに再検討し、新たな方法を提案している。

研究課題2では砲丸投の技能改善が上手くいかない大学陸上競技者1名を対象に、研究1で提案した記述・分析法を活用して、詳細なインタビュー調査の分析から運動の理解に関する変化を探っている。その結果、技能改善の取り組みの分析から、競技者や指導者が「技能改善を円滑に進めるための仮説的な運動の理解に関する確認観点」（以下、確認観点）として、著者は「①目標像」「②目標像の模倣」「③評価の観点」「④運動意識」「⑤主観と客観の照合」の5つを導出している。

研究課題3では、研究課題2で導出した確認観点を手がかりに、陸上競技の跳躍・投擲種目を専門とし、競技経験が3年以上の者10名を対象に、技能改善の取り組みについて半構造化インタビューを実施し、確認観点の妥当性の検討を試みている。その結果、技能改善が上手くいかない状況において、多くの競技者が5つの確認観点から逸脱して取り組んでいたことから、確認すべき観点であることを明らかにしている。一方、確認観点の取り組みをしているにも関わらず、上手くいかない競技者も存在していることを著者は確認している。そして、より詳細に確認する必要がある項目、新たに確認すべき項目を追加し、新たな確認観点を加えた12個を導出し、提案している。

総括論議では、研究課題3で導出された12個の確認観点の妥当性や総合性を先行研究との関わりから確認するとともに、さらに研究で取り上げた対象者における「技能改善が上手くいかない状況」で生じている運動の理解を確認する観点の導出を試みている。その結果、「運動意識」の確認観点の中に新たに「一般化」の詳細な観点を導出するとともに、導出された12個の確認観点が先行研究と比較して平易な言葉で総合化されていることや実践事例の中から導出された確信度の高いものとして提案されたものであることを明らかにしている。また、各確認観点の関係性にも配慮し、構造的に把握できるように提案している。最後に、技能改善を円滑に進めるための運動の理解に関する確認観点の活用法についても提案している。

本論文において示された一連の研究成果は、大学陸上競技者やその指導者が技能改善を円滑に進めるための運動の理解を確認する観点がいかなるものかを現場的な視点から、個別事例の分析を手がかりに仮説生成と仮説検証を組み合わせ、確認観点を総合的かつ構造的に提案した実践的な研究である。特に、これまで散在し、根拠が曖昧な運動の理解に

関する確認観点を大学陸上競技者の技能改善の取り組み事例を根拠に、総合的かつ構造的に示した点は高く評価できる。また、技能改善が上手くいかない背景に運動意識の一般化に関する問題を見出したことも注目される。このような技能改善に向けた運動の理解に関する確認観点の知見は、研究対象となった大学陸上競技者のみならず、他の大学スポーツの指導者や競技者にも有用な示唆を与える内容を含んでおり、著者が提案した運動の理解に関する確認観点は重要な役割を果たすと考えられる。

上記の研究結果から、本論文の内容は博士（体育スポーツ学）の学位論文としてふさわしいものであると判断する。